

文・山崎 しげ子 随筆家



吉野山の金峯山寺蔵王堂で七月七日に行われる「蓮華会」。「蛙飛び」の名で親しまれているが、本来は蓮華（蓮の花）を仏に献じる行事である。その蓮華が、実は、蓮の里として知られる大和高田市南部の奥田から納められている。

ここは、奈良時代に吉野山で修験道を開いた役行者の母、刀良売が住んでいた地といわれる。

捨篠池の「一つ目蛙」

昔、昔のこと。ある朝、刀良売が池のほとりを歩いていると、どこからともなく音楽が聞こえ、あたりの朝露も五色に光り、まるで極楽のような美しさであった。池の中から一本の蓮の茎がするすると伸び、花が開いた。その上には金色の蛙が一匹、まばゆいばかりの姿でとまっていた。刀良売はすっかり心を奪われ、池の岸に生えていた篠を一本抜き、何気なくひよいと投げた。

と、篠は蛙の目に刺さったのだ。すると、今までの様子がすっかり変わった。あたりは暗くなり、蓮の花はしぼみ、音楽は消え、蛙は片目に篠を刺したまま、池の底へ潜ってしまった。

しばらくして、あたりは元の明るさに戻った。だが池から出てきた蛙は、泥色の一つ目蛙であったという。それからというもの、池は捨篠池と呼ばれた。刀良売は、その後、このことを悔



捨篠池で行われる「蓮取り行事」。蓮取り舟が出て、山伏の法螺貝の音が響く中、蓮の花が切り取られていく。池畔は見学者で賑わう。



大和高田市奥田に、修験道の開祖、役行者の母刀良売が住んでいたという。その墓とされる五輪塔に、山伏らは蓮の花を献じる。

いながら亡くなった。子の役行者は、お堂を建てるなど母と蛙を手厚く供養をしたと伝えられる。

蔵王堂で行われる蓮華会の朝、奥田の捨篠池（弁天池）では、蓮取りの舟が出て、蓮が切り取られていく。

蓮華は桶に入れられ、善教寺に集まった山伏（修験者）らに担がれながら、福田寺の行者堂、刀良売の墓に詣でて蓮華を献じたあと、捨篠池すぐ横の弁天神社に戻って護摩法要を行う。そして蔵王堂まで一〇八本の蓮華を運び、蓮華会に合流するのだ。古式ゆかしく、清らかで厳かな行事である。

奥田の蓮取りは、金峯山寺蔵王堂で行われる蓮華会の一連の行事として、平成十六年、奈良県無形民俗文化財に指定された。

蓮取り行事は7月7日午前10時より、大和高田市奥田で開催。当日は近鉄大和高田駅・高田市駅、JR高田駅から無料送迎バス運行。

